第14章

「人と情報をつなぐ」情報の組織化と提供サービス

国立女性教育会館の情報事業30年の蓄積より

青木　玲子

1　はじめに

1977年に開館した国立女性教育会館（以下NWEC）は、研修、交流、調査研究、情報の4機能を相互に連携させながら、研修、セミナー、国際交流プログラムなど男女共同参画社会の形成を推進するナショナルセンターとして総合的に事業を進めてきた[1]。

本稿はNWECの事業の中から、情報事業の資料提供サービスについて述べる。女性情報の専門機関として女性教育情報センター（以下情報センター）の特色ある30年の蓄積データを活用するために、ICTも活用しながら、どのように資料を組織化し、サービスをどのような視点で展開するのか、すでに展開している新しい実践事例を報告するとともに、今後の情報事業の可能性を探るものである。

情報事業は、次の三事業で構成される。①「女性教育情報センター」の資料構築・運営（1979年「情報図書室」を開設、1987年に改称）、②「女性情報ポータルWinet（Women's Information Network）」による各種データベース、インターネット資源のナビゲーション提供、③「女性アーカイブセンター」の資料構築・運営（2008年に開設）。

これら情報事業のサービスは、現在第二期中期目標、中期計画に沿って実

施されている[2]。その目標は、「男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等」の項で、「地域では取り組むことが困難な全国的調査研究等を行い、地域の女性教育施設等が関連の事業を行う際、企画・運営等で参考になるような情報等をより使いやすい形で提供し、効果的な事業実施が可能となるよう支援する」ことにある。

情報センターは、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する分野において、国内外の情報の収集・整理・提供を推進しており、現況の47万件に及ぶデータ数と以下で紹介する多様な資料提供サービスは、33年の情報事業の蓄積とその活用を示すものであると言えよう。

NWEC の事業実施にあたっては、国内外の社会状況、女性政策の動向、また女性たちの活動を反映しながら今日まで事業展開してきた。なかでも情報事業はコンピュータによる図書館情報システムの導入に始まり、インターネット発信による情報提供サービスを追加・拡大していくなど、ICT の大きな変革期にあり、現在も多様化を進めている。

2　資料提供サービスの特色と課題

女性教育情報センター所蔵資料の提供

情報センターは、男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する分野において学習・調査・研究支援に必要な国内外の広域的、専門的な資料を中心に収集し、女性情報のナショナルセンターとしてコレクションを構築することを資料収集の基本方針としている。第１表には情報センターが、所蔵、提供している資料を示す。

情報センターに所蔵する資料は、第１表で示したように、図書のみならず、国、地方公共団体発行の行動計画、条例、広報誌、事業報告等の行政資料、女性団体、NGO、大学が発行する冊子、パンフレット、ミニコミ誌、新聞切り抜きなどの灰色文献も含めて、多様なものがある。特に新聞切り抜きは、全国紙、地方紙に掲載された男女共同参画及び女性・家庭・家族に関

第1表　所蔵資料数（平成22年3月末現在）

項　　目	和　資　料	洋　資　料	計
図　　書	69,858冊	21,464冊	91,322冊
地方行政資料	24,679冊	8冊	24,687冊
計	94,537冊	21,472冊	116,009冊
雑　　誌	3,102誌	715誌(60国)	3,817誌
新　　聞	74紙	1紙	75紙
新聞切り抜き	282,853件	−	282,853件
A　V　資　料	142種	7種	149種
研修貸出用資料	15種	−	15種

する記事について、記事見出し、記事中の人名、新聞名、日付、キーワードを主なデータとして登録してあり、図書、雑誌と同じように文献情報データベースから検索が可能である。こうした所蔵資料は、大学図書館、公共図書館、他機関には見られない専門テーマによる構成となっており、貴重なコレクションである。

広域のサービスを展開するナショナルセンターの情報提供機関として、資料の閲覧、貸出については、会館内閲覧・会館内貸出という来館者型のサービスと共に、図書・雑誌や新聞記事の所在が調べられる文献情報データベースの提供、レファレンスサービスはもちろんのこと、1999年の横断検索システム Winet CASS 公開など ICT の活用による、非来館者型の情報提供サービスの充実も図ってきた。遠隔地域への個人貸出サービスとしては、公共図書館や女性センター、大学図書館等を通じたサービス及び来館者への個人貸出の試行を提供している。

NWEC は、必ずしも交通アクセスが良いとはいえない環境にあり、館内情報センターの利用状況は、入室者数、レファレンスサービス件数は一定であるが増加しにくい。しかし、次にあげる ICT 活用による情報サービスの提供により、遠隔地においても本や資料の情報が入手しやすくなってきている。①全国の大学図書館等と共同構築している全国総合目録（NACSIS-CAT)、地域の公共図書館の所蔵データベースへのアクセスが可能な埼玉県

内公共図書館等横断検索システムで図書や雑誌を探し、相互に貸借する。②地域共同リポジトリからNWECの論文等が無料で直接入手できる。③2005年度に試行として開始した文献複写 Web サービス等により、文献複写サービスは2005年度の469件から2009年度は1,476件に増加した。所在情報の提供や Web 文献複写サービスの伸び率は、Web 上で検索できるが、資料や本を手にすることが困難な遠隔地の個人ニーズを示している。このようにエンドユーザーへの視点にたった情報サービスの提供は重要である。「情報が力」[3]となるためには、資料・情報が確実にエンドユーザーに届くサービスの構築と共に新しいユーザーによる情報センターの利用推進も必要である。女性情報の専門機関として特色ある30年のデータ蓄積を更に活用するためには、ICT を活用しつつ情報提供サービスと資料提供サービスの多様な組織化が課題であろう。

女性情報ポータルサイトによる女性情報の提供

2006年に公開された女性情報ポータルサイト Winet は、次の三要素で構成される。①女性情報ナビゲーション（女性情報に関する Web 情報を効率的に利用するために集めたリンク集、インターネット資源情報）、② NWEC 作成データベース、③女性情報 CASS（NWEC 作成のデータベースと他機関データベースの横断検索）。

NWEC は、独自の調査による女性の状況把握、問題解決のために必要なデータを収集、データベースを作成して公開してきた。中でも「女性関連施設データベース」は、毎年データ更新をしている。また「女性と男性に関する統計データベース」は、男女共同参画の推進状況を把握するデータを提供しており、研究や政策立案、セミナーや研修に活用されているデータベースである。「女性情報レファレンス事例集」「男女共同参画人材情報データベース」は、情報センターが受けたレファレンス（情報相談）等からの（全国から共通の）ニーズにより開発されたものである。これらの効果的な活用のためにそれぞれのデータベースの特色と活用方法を示し、利用者にわかりやす

く届ける広報がこれからの課題である。ポータルサイトはこれらデータベース・情報検索の窓口であり、アクセサビリティ、デザイン、記載内容を検討しつつ、今年度改定作業を進めている。

女性アーカイブセンター、デジタルアーカイブシステムによる資料提供

2006年から 2 年間の調査研究の後、2008年 6 月女性アーカイブセンターが設立され、同年10月女性デジタルアーカイブシステムが公開された。調査研究の結果、出された報告書は女性アーカイブセンター機能について、資料保存機能のみならず、アーカイブ情報をデジタルアーカイブシステムにより共有し、アクティブなアーカイブとして NWEC の事業に活用すると史資料活用の役割を大きく打ち出している[4]。この活用事例としてすでに、アーカイブセンター事業として、女子大学との連携による企画展示、「奥むめをコレクション」など所蔵コレクションを活用した、キャリアセミナーや大学生向けの教育プログラムなどを実施している（上村他，2008）。また、来館者のためのアーカイブセンターのガイドツアー、専門家によるトークイベントや「女性アーキビスト入門講座」などの人材養成講座も実施されている。

まだ女性アーカイブセンターの歴史は浅い。今後もコレクションを充実し、資料の提供・保存のためにデジタル化を急がなければならないことは当然であるが、人材、費用とも限界がある。全国の女性情報の保存・活用のために、各地域の公文書館、大学、女性関連施設と連携した（アーカイブ資料構築の）ネットワーク連携も必要である。

NWEC 作成の「全国女性アーカイブ所在情報データベース」は、日本国内各地の施設・機関・団体に散在して保存されている女性アーカイブの所在情報を収集し、データベースとして公開したものである。

女性アーカイブセンターの設立により、情報センターが蓄積する公刊された資料に加え、歴史的事実に基づいて次世代の女性に何を引き継ぎ、何を目指すか、今後の検証に役立つ史資料が NWEC に整備されつつある。

3 新たな情報サービスの展開

今日、教育基盤としての大学図書館の情報サービスを捉える次の 3 つの視点がある[5]。第 1 は、図書館と教育プログラムの連携、第 2 は、場としての図書館、第 3 は情報リテラシー教育である。

女性教育・生涯学習の場である NWEC の新しいサービス視点となるものは、大学の情報サービス視点と共通する点がある。情報センターのサービスの新しい展開の視点としては、次の 4 点をあげることができる。第 1 は「情報は力」として、一人ひとりに情報が届くエンドユーザーへの情報提供サービス、第 2 に NWEC のセミナーや研修、教育プログラムへの資料提供サービス連携、第 3 に情報センター来館者への学習の場・リテラシー教育の場の提供、そして第 4 にナショナルセンターとしてのネットワークの拠点である。以下では、すでに新しく展開しているサービスを紹介しつつ、これからの可能性を探る。

情報基盤の充実――蓄積資料・データの活用

NWEC は教育機関であり、宿泊を伴った研修、研究、資料の利用などで滞在する来館者に対する情報センターのサービスが重要視される。蓄積された情報の活用については、来館者型サービスと非来館者型サービスの両方の充実を図らなければならない。特に非来館者型のサービス提供については、エンドユーザーのニーズを視野に入れ、他機関との新しい連携とサービスのシステム化を進めているところである。

⑴図書のパッケージ貸出サービス

情報センターは、大学、女性関連施設、公共図書館等を対象に、「男女共同参画」や「女性労働問題」「女性のキャリア形成」「家族問題」「女性への暴力」など、専門のテーマにあわせて、図書のパッケージをつくり、各機関等に貸出するサービスを2010年 6 月から開始した。2010年12月現在、試行的

に８つの大学、女性関連施設に貸出を開始し、2011年１月にはさらに３機関が参加する。このパッケージサービスには、サービスシステムとして３つの意義と効果がある。第１にエンドユーザーの個人貸出を視野に入れたサービスシステムであり、今までNWECに来館したことがない、サービスの対象とならなかったユーザーの利用拡大の可能性がある。特に、受け入れ機関が大学・学校の場合、社会学・女性学・ジェンダー学等の教育プログラムとの連携・支援に繋がる可能性のほか、情報センターのレファレンスサービスやデータベースなど情報の紹介によって、大学図書館の情報リテラシー教育プログラムとの連携などにもつながる可能が考えられる。第２に、パッケージの構成は受け入れ機関のニーズに答えるシステムであり、貸出冊数やリクエストなどによる新しい情報ニーズの把握が可能である。第３に、今後の大学と地方の機関を結ぶネットワークが広がる可能性があるという点である。たとえばNWECの大学へのサービスをきっかけとして、地域の女性関連施設が資料を地元大学などに提供し、それらの施設も新しくエンドユーザーを拡大する効果が期待される。

⑵学術情報発信システムへの参加

全国的に大学の学術機関リポジトリの整備が進んでいる。この機関リポジトリは、機関の研究成果を保存・公開してオープン・アクセス化すること、また出版されない灰色文献や学位論文や研究報告書類を機関として保存することを目的としている。NWECは、埼玉大学と埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）が運営する地域共同リポジトリ（SUCRA さくら：Saitama United Cyber Repository of Academic Resources）に加入して研究ジャーナル、ヌエックニュース、事業報告などを発信している[6]。また、埼玉県のネットワークとして、埼玉県大学・短期大学図書館協議会は、埼玉県、県の公共図書館、高校図書館との連携で、「図書館と県民のつどい　埼玉2010」において各大学図書館の社会人への図書館サービス内容や各機関が所蔵する貴重なコレクションの紹介などの展示を行った。NWECは女性アーカイブセンターの資料から昭和初期のニュース等の映像資料を紹介、展示し、来場者か

らの関心が高く、NWEC を訪れたことのない地元市民に対する広報効果とともに、デジタル・アーカイブシステムの広報にもつながった。

⑶地域協力ネットワーク

埼玉県では、県内すべての公共図書館が蔵書を共有、ネットワーク加入図書館間で資料の相互貸借を行っている。所蔵している図書館から申し込みのあった図書館への資料の貸出は、県立図書館の「連絡車」「協力車」が行っており、2010年度は、のべ82万冊本が市町村立図書館等に搬送されている。情報センターも2007年12月に参加した。地域協力ネットワークの参加は、エンドユーザーのニーズに対する貸出サービスであるが、むしろ地元の図書館に情報センターの専門的なテーマを周知することにより、県内の公共図書館の資料提供に男女共同参画の視点を加える効果がある。

研修・セミナー等の教育プログラムとの連携

NWEC では、2010年度、埼玉大学など大学との連携で「キャリア教育」等のプログラム開発を行っている。神田理事長によるキャリア形成の持つ意味の講義「社会と個人を結びつけるのがキャリアであり、キャリア形成はそれを自分の課題としてとらえ、どのように関係を結び、もっていくかを主体的に考えること、そしてそれを実現していくための力をつけることが課題」を読み解いても、大学生に自己の状況や社会状況を客観的に捉えるための情報提供をする意味は大きい。また同時に専門的な情報にアクセスする意欲を持ち、それらの情報を批判的に読み解く情報リテラシー能力をつけることも必要である。

一人の女性・男性の生涯につながる教育プログラムと連携する情報提供サービスには、参加者の年代やキャリアに合わせた資料・情報提供が必要であり、同時にそのサービスは情報リテラシー能力の養成にも通じるものといえよう。NWEC のキャリア形成のプログラムに対する情報提供は、学習者の継続的な NWEC への利用を可能とする情報センターの支援サービスの提示である。

すでにキャリア形成のプログラムには、女性のキャリアの経験を伝える資料としてアーカイブセンターコレクションを活用した事例、また社会的現状認識を促す情報として男女共同参画統計を活用した事例がある。変容する社会の中で、女性も男性も自分のキャリアを自己課題化するための将来戦略や具体的なプランを作成するためには、継続的な学習機会も必要であり、学習の場としての NWEC の総合的な事業企画と情報事業の内部連携をさらに推進することが必要である。

学習の場としての女性教育情報センター

1990年代から、大学図書館で図書館の場を「情報資源を検索し、利用する場、そして学習の場であり、人々の交流する場として居心地の良い空間、環境の良い空間」とするラーニング・コモンズの試みが始まっている。情報センターも、来館者に対するサービスとして、探しやすい書架の配置、わかりやすい利用案内などの工夫や、学習用と閲覧用座席の配置など館内のゾーンニングを計画している。大学図書館や公共図書館とは異なるコレクションとの出会いの場、専門情報を調べるノウハウを知る場、人との出あいの場、思考する時間を生み出す場を積極的に創る試みは、来館者にとって、情報センターが「本が置いてある場」から「資料が知識や情報を生み出す学習の場」となる体験である。

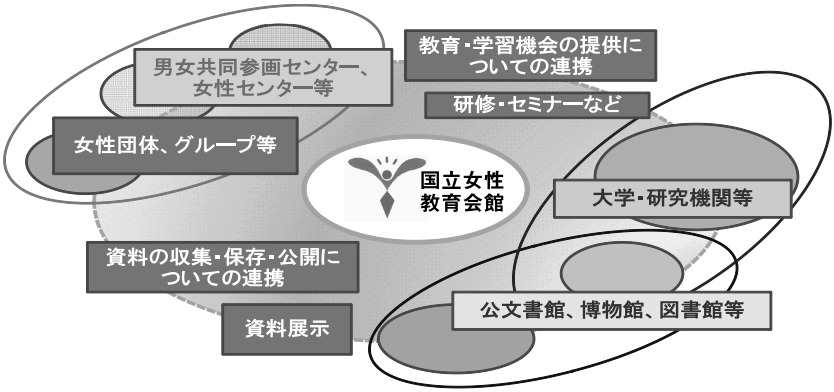
学習の場としてのセンターの新たな認識と2010年度から試行されている来館者のための館外貸出は、来館者の学習継続と再訪が期待できるサービスの始動である。

情報や経験を共有するネットワークの構築

第１図は、NWEC の情報や経験を共有するネットワークの構築をイメージしたものである。女性センターや図書館、生涯学習機関等の上下ではなく、横につながるネットワークである。それぞれの機関が特色ある情報を持ち、また新しいネットワークを構築する可能性のある緩やかなネットワーキ

ングである。情報社会にあっては、情報を共有するためのネットワークのあり方も ICT の進歩と共に大きく変化していく。リポジトリなどの情報システム構築の経験も共有するネットワークは、情報と共に人の交流するネットワークでもある。例えば「女性情報レファレンス事例集」はまさしく女性センターの経験を共有する人のネットワークで構築されたデータベースである。中期目標では、「地域の女性教育施設等が関連の事業を行う際、企画・運営等で参考になるような情報等をより使いやすい形で提供し、効果的な事業実施が可能となるよう支援する」と示されている。NWEC と地域の女性センターのネットワークで構築された「女性情報レファレンス事例集」は、大学図書館や公共図書館でも活用され、さらに女性関連施設と図書館のネットワークを広げる起動点となっている。

第１図　情報や経験を共有するネットワーク



女性関係史・資料の保存と活用を学ぶ　女性情報アーキビスト入門講座　平成22年10月27日（水）～28日（木）

4　多様なサービスの組織化を目指して

情報センターは、所蔵資料の活用を図って来館者、非来館者に対するサービスを着実に提供してきた。しかし、NWEC は全国を対象としており、大学図書館や公共図書館のように利用者が構成員である機関とは異なる。情報センターの蓄積した資料、また多様なサービスはまだまだ周知が不足していることは否めない。情報センターの多様なサービスの展開の基盤となるものは、来館者、非来館者の学ぶプロセスに情報がどのように活用されていくのか、女性情報が力となって人々をエンパワーするプロセスとそのためのサービスをユーザーに可視化することである。

本稿で取り上げた大学との連携によるキャリア教育プログラムにおける資料・情報の提供と活用は、「情報が力となる」資料を若い世代に提供するこれからのサービスの可能性が見える事例となった。また、図書のパッケージ貸出サービスや地域ネットワークへの参加は、大学や関連機関の情報提供サービスを組み込んだエンドユーザーへのサービスである。このような NWEC が提供するサービスを組織化することで、女性センターや大学のネットワークを通して同時に多くの機関に NWEC のサービスを可視化することも可能となった。パッケージ貸出サービスのように、資料提供サービスを組織化するためには、以下のマネージメントサイクルが必要である。①情報ニーズの把握、NWEC のテーマの専門性を活かした貸出のための所蔵資料の検討（PLAN)、②資料提供方法のシステム化と実施（DO)、③貸出サービス（ACTION)、④サービスの検証（CHECK)。

情報センターのマネージメントサイクルにおいては、サービスの適正化、経済効果の検証に加えて、「サービスの組織化のプロセスで、他機関と男女共同参画の視点がどのように共有されたか」という検証が重要である。情報センターにとってこの検証項目は、資料・情報提供サービスの組織化を進める基盤条件であり、女性情報・男女共同参画に関する専門機関のサービスと

しての必須条件である。

注

1 国立女性教育会館 2007『国立女性教育会館 会館30周年記念誌』

2 文部科学省 2006「独立行政法人国立女性教育会館 第 2 期中期目標・中期計画（平成18年度～平成22年度）」

3 国立婦人教育会館 1985「国際セミナー開催要項」

4 国立女性教育会館 2007『女性アーカイブセンター機能に関する調査研究報告－女性の歴史を今に生かし、未来へつなぐ』

5 国立大学法人筑波大学 2007『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告－教育と情報基盤としての図書館』

6 http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/

参考文献

上村千賀子・齋藤慶子・渋谷晴子 2008「資料解題：奥むめおコレクション－暮らしに根づいた女性運動の軌跡」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第12号：38－40

（あおき・れいこ 国立女性教育会館客員研究員）